

## 私立高等学校の「建学の精神」に関する研究

町田 健一      岡林 秀樹  
原田 一成      目黒 賢哉  
高瀬 香織

### 1. 問題と目的

本研究は、1993 年度より全国の小・中学校を対象に始めた私立学校における「建学の精神」、「一貫教育」、「寮教育」に関する研究の延長上にある、高等学校を対象とする調査の一部である。中学校レベルの「建学の精神」堅持のための課題を考察しているときに、建学の精神の類型化の必要性を強く感じ、院生の協力を得て、上記の高等学校向けのアンケート調査に加えて本研究を企画した。一連の研究の動機は、第一に、キリスト教主義学校の教員の集まりにおいて現場の教員のフラストレーションとしていつも問題とされることであるが、クリスチャン教師の減少の危機も含めて、廃れかけているキリスト教主義学校の存在意義・建て直しの模索である。第二にはより一般的に、生徒の減少期に伴い、建学の精神を見直しつつスクール・アイデンティティー (S.I.) を模索する世の中の動きである。

私立学校法第一条には、私立学校の使命として、公共性と共に自主性（独自性）が謳われている。私立学校は公立学校の代替的な役割を果たすためであるだけでなく、その独自の建学の精神に基づき、公立学校では満たされない国民の教育要求に応えるために存在しているのである<sup>1)</sup>。建学の精神とは、「私学創設者が、学校を企劃するに当たって考える人間像の相に基づくものであり」、「その時代の要請と創設者の教育理念の渾然一体となって現れたも

ので、…学校創設発想の情熱」である。そして基本的には、「建学の宣言は、教育哲学の一発想であり、それは学校の続く限り不易流行の観念を持って生成発展しつづけてゆくものである」<sup>2)</sup>。

しかし、独自の、特色のある思い切った取り組みができるという意味で、今日の多くの学校教育の問題を解決できる立場にある私立学校が、もし建学の精神を忘れ、経営面ばかりに目が行き、受験体制のような画一的教育目標達成に走るならば、その存在意義は失われてしまうであろう。現実には多くの私立学校で建学の精神の達成に困難さを感じていたり、またその困難さゆえに、現在の教育目標を創立時よりかなり変えてしまっている例もある<sup>3)</sup>。さらに、一口に「建学の精神」と言われていても、その構成要素（下記参照）及び強調点は種々様々であり、そのタイプによって建学の精神に対する今日の日毎のとりくみにおける意識の度合は異なってくるようだ。また、時代の要請が加味されている以上、時代と共に表現を修正せざるを得ないものもある（例として“良妻賢母”など）、代が替わり、経営母体が替わり（宗教法人からの離脱等）、今日の学校教育目標が建学の精神から大きく変わってしまっているケースもある。

本研究では、まず「建学の精神」の構成要素を抽出して類型化し、どのようなタイプの「建学の精神」が時代を越えて生き続け、どのようなタイプが時代と共に変化を余儀なくされているのかを概観してみたい。紙面の都合上、その問題点やその理由、及び建学の精神堅持の課題は別な機会に考察することにする。

## 2. 方法

### (1) 「建学の精神」の構成要素の分析

アンケート作成も兼ねたパイロット・スタディーとして、なるべく多様な設立基盤を持つ学校が含まれるように意図的な配慮を加えて各地域から特徴のある10都府県を選び、それらの都府県内にあるすべての私立高等学校379校について、明文化された建学の精神を分析した。10都府県とは、岩手、新潟、東京、長野、静岡、京都、広島、高知、鹿児島、沖縄である。資料としては、日本私立中学高等学校連合会編30年史「私学の創立者とその学風」(昭和52年)を用いた。各校の建学の精神をキーワード(10個前後)で表し、カテゴリー化した。

### (2) 私立高等学校の「建学の精神」の類型化

上記379高等学校の建学の精神を表すキーワードを整理して、5カテゴリーに分類し、さらに各カテゴリーの下位項目をまとめると、後述の調査結果(1)の表3における左欄のようになった。この表を元に下記のような問いをつけたアンケート用紙を作成し(アンケート用紙は紙面の都合で省略)、全国すべての私立高等学校1238校(休校中等は除く)の校長宛に送付して、実現度の評価も含めて私立高等学校の「建学の精神」の類型化を試みた。

貴校の建学の精神を5カテゴリーに分解してみると、それぞれの下位項目のいずれに該当するでしょうか。該当する項目については、その項目の左側の□の中に○印をつけてお答え下さい。なお、すべての項目は複数回答可です。(ここでは、貴校の現在の状態ではなく、あくまでも建学時における「建学の精神」をお答え下さるよう

お願い致します。)

次に、○印をつけた項目についてのみ、その「建学の精神」が、現在貴校で実現されている程度を、5段階で評定して下さい。

先行研究となる私学の類型化に関する研究によれば、建学の精神の顕現化に熱意を注ぐ学校には宗教系の学校が多い、との指摘がある<sup>4)</sup>ことから、基本的には宗教系、非宗教系に分け、また時代的変遷も含めて考察することにする。

### 3. 調査結果と分析

#### (1) 「建学の精神」の構成要素の分析

各校の「建学の精神」をキーワードで表し次のようにカテゴリー化した。

例1 A 高等学校の建学の精神は、次のようなキーワードで構成されている（下線の部分をキーワードと考えた）。

「教育とは子供の心に神への畏敬と人への愛を植えつけることである。人を神の似姿（心に豊かな愛を持ち愛に生きる）に変容させることを目指すキリスト教精神を基に魂の教育をし、世の光として社会へ送り出すことを目的とする。6年間の一貫教育によって、また具体的には毎週の倫理の授業や朝の放送、休暇中の多くの合宿生活を通して、確固たる倫理観と人格形成を目指す。」

ここで、各キーワードはそれぞれ次のように分類できると考えた。

(a) キリスト教精神： 教育理念・基盤としての宗教

- (b) 魂の教育、世の光： 教育理念・設立の目的（人間性の教育、宗教・思想の普及）
- (c) 人格形成： 具体的教育目標（一般的資質：調和のとれた人格）
- (d) 確固たる倫理観： 具体的教育目標（徳育的目標：高い道德性・倫理性）
- (e) 神への畏敬： 具体的教育目標（徳育的目標：宗教的情操）
- (f) 人への愛： 具体的教育目標（徳育的目標：隣人愛）
- (g) 6年間の一貫教育： 具現化する教育方法・教育実践（学校形態）
- (h) 倫理の授業： 具現化する教育方法・教育実践（教科指導）
- (i) 朝の放送： 具現化する教育方法・教育実践（特別活動）
- (j) 合宿生活： 具現化する教育方法・教育実践（特別活動）

例2 B 高等学校の建学の精神は、次のようなキーワードで構成されている。

「よき母の育成により、日本の将来をにやう良き青少年を育成することが出来る。家政科、勤労体験を通して、将来母親たるべき女子青年を有為なる人物となるよう教育する。円満な人柄と健康、向上心を養うことに努め、明るさ、正しさ、和かを具体的な教育目標として掲げる。」

ここで、各キーワードはそれぞれ次のように分類できると考えた。

- (a) 女子青年： 特定の教育対象
- (b) 円満な人柄と健康、向上心： 具体的教育目標（一般的資質）
- (c) 明るさ、正しさ、和か： 具体的教育目標（徳育的目標）
- (d) 家政科、勤労体験： 具現化するための教育方法・教育実践（教科指導、特別活動）
- (e) よき母の育成： 教育理念・設立の目的及び社会貢献のあり方（よき

家庭人の育成)

- (f) 日本の将来をにやう良き青少年を育成： 教育理念・設立の目的（社会・国家の要請）、及び社会貢献のあり方（善良なる市民、近代的市民の育成）

記述の仕方が統一されていない 379 校の各高等学校の建学の精神の構成要素をカテゴリー化することにやや無理があるが、一般に建学の精神を構成するキーワード（建学の精神の構成要素）は、

- (i) 教育理念（基盤としての特定の宗教・思想及び設立目的）
- (ii) 特定の教育対象
- (iii) 具体的教育目標
- (iv) 社会的貢献の仕方
- (v) 建学の精神を具現化するための教育方法・教育実践

の五つのカテゴリーに分類され、文章としては次のように表されることが分かった。

「\_\_\_(i)\_\_\_の教育理念（宗教・思想）に基づき、特に\_\_\_(ii)\_\_\_を教育対象とし、\_\_\_(iii)\_\_\_の様な資質・技能を持った人材を養成し、\_\_\_(iv)\_\_\_の様な形で社会に貢献することを期する。  
そのために、\_\_\_(v)\_\_\_の様な教育方法あるいは、教育実践の場を設けてその目的達成のために努力する。」

さらに 379 高等学校のキーワードを整理して、各カテゴリーの下位項目をまとめると表 3 の左欄のようになった。表が大きいため本稿末に置く。

## (2) 私立高等学校の「建学の精神」の類型化

240校からの回答を受け、回収率は19.4%であった。非キリスト教系（仏教、神道、その他）の各学校数が非常に少なかったため、今回は統計処理上、「キリスト教系」65校、「非キリスト教系」26校、宗教基盤を持たない「一般」128校（未記入欄が多く処理できない21校は除く）、の三つのグループに分けて分析した。

なお、分析にあたっては、全項目について

(a) 宗教的基盤の有無

(b) 創立年代（明治、大正、昭和元年～第二次大戦期、戦後の4期に区分）

の二つの観点から $\chi^2$ 検定を用いて分析を試みた。

まず、観点(a)「宗教的基盤の有無」によってグループ分けし、各理念の採用率（回答率）で有意差の見られた「1-2. 設立の目的」、「4. 社会的貢献」、及び「3-1. 具体的教育目標・徳育的側面」の項目を抜き出して、順に検討する（表1）。

表1の「設立目的」及び「社会的貢献」の項目より、まず、非宗教系は地域密着性が高く、その設立動機はプラグマティックであるといえる。このことは、時代背景の変化に対する潜在的な柔軟性を感じさせる。それに対して、宗教系、特にキリスト系は、より普遍的な理念・理想を設立の動機にしており、国際的貢献、そのために習得をめざす技能として外国語の履修の強化が謳われている（表3も参照）。この差が、今回のような汎社会的規模での経営困難期における学校経営の柔軟性に影響する可能性がある。

また、「具体的教育目標・徳育」の項目からも言えるが、これらは、「徳育」の項目でも特に普遍的な性格を持つ価値観であるという意味において、上で確認された傾向と一致するとみることができる。

表1 宗教的基盤の違いによる各理念の採用率

カテゴリー 及び下位項目	宗教系		非宗教系	p
	キリスト教系	非キリスト教系	一般	
1-2. 設立目的				
社会的要請	39.1%	36.0%	56.7%	*
地域振興	16.4%	28.0%	38.8%	*
国際的貢献	37.0%	8.0%	17.1%	**
教育機会保障	47.1%	24.0%	21.6%	**
3-1. 教育目標・徳育				
道徳・倫理	57.4%	44.0%	37.0%	*
価値観獲得	45.6%	12.0%	21.3%	**
愛他・奉仕	82.4%	52.0%	48.0%	**
4. 社会的貢献				
産業人	5.9%	0.0%	25.2%	**
国際・平和	70.6%	28.0%	35.4%	**

(\*  $p < .05$ , \*\*  $p < .005$ ) (df=2)

次に、観点 (b)「創立年代」によってグループ分けし、採用率（回答率）で有意差の見られた「1-2. 設立の目的」、「4. 社会的貢献」「3-1. 教育目標・習得すべき精神的資質」、及び「3-2. 教育目標・特別に習得をめざす技能技術」の項目を抜き出して、順に検討する（表2）。



表2 創立年代の違いによる各理念の採用率

カテゴリー 及び下位項目	明治	大正	戦前	戦後	p
1-2. 設立目的					
地域振興	21.7%	31.8%	21.2%	38.2%	+
産業要請	1.6%	4.5%	9.1%	12.7%	+
女子機会	41.0%	40.9%	33.3%	15.3%	**
3-1. 教育目標・精神的資質					
基本生活	38.3%	40.9%	57.6%	58.7%	*
堅実質素	35.0%	31.8%	54.5%	54.1%	*
3-2. 教育目標・技能技術					
家庭技能	21.7%	22.7%	33.3%	11.1%	*
4. 社会的貢献					
産業人(貢献)	3.3%	13.6%	15.2%	23.9%	*
(+ p<.10,   * p<.05,   ** p<.005)   (df=3)					

「設立の目的」の上の二項目（「地域振興」と「産業要請」については、やや弱いものの）と、「社会的貢献のあり方」の一項目と合わせて、これらの理念の採用率は時代が進むに連れて増加の傾向がある。すなわち、観点(a)における分析と併せて考えるに、非宗教系を中心にある種類（タイプ）の私

学の設立目的は、時代と共にプラグマティックな性質を強める傾向が見られると言えよう。これは公立・官立に対する「隙間産業」としての性格を持つと表現されることもある私学に関して、その参入しようとする「隙間」の持つ性質・内容が時代とともに変化してきた過程を表していると思われる。また、時代性は女子教育にも現れている。「1-2. 設立の目的・女子に対する教育機会の保障」および「3-2. 特別に習得をめざす技能技術」において、とくに戦前と戦後の間で顕著な差が見られる。これは、とくに女子校の設立の意義あるいはそれに託される使命の時代的变化を表すものと思われる。

また、「徳育」の項目のなかで、いわゆる躾や基礎的生活習慣に関する理念の採用が、時代とともに高まっている。「3-1. 精神・身体的資質」の「基本的生活習慣の習得」および「真面目で着実な人物（勤勉・勤労、堅実、質素）」の項に関して、現代に近づくにつれて建学の精神に採用している学校の割合が増えている。これは、全人的な人間教育の必要性の認識や、家庭や地域社会の持つ教育力の低下の認識を反映するものと思われる。

各カテゴリー毎の、下位項目に対する現時点での実現度（5段階評価）についてもいくつかの項目について有意差が確認された。しかしながら、この設問に関しては評価を避けるケースや記入者の記入ミスが多かったことも災いして、また一つひとつの項目についてそれを採用したとする校数が設問によっては非常に少なく、統計上の有意差は確認されても現実的にそれが意味をなすとは考えられないこともあり、表3に参考までに記すにとどめる。

各カテゴリー毎に多くの学校で取り上げられている下位項目のグループ毎の特徴など、興味のある様々な分析は今回紙面の都合でここに掲載することができずこれも別の機会に回す（表3を参照）。

#### 4. 考察

調査結果（1）より、一般に「建学の精神」と呼ばれていたものの構成要

素をカテゴリー化できたことから、建学の精神を類型化でき、分析することができるようになった。そして各高等学校が、設立時に目指した教育目標・機能を十分に発揮できなくなっている時に、5カテゴリー（教育理念、特定の教育対象、具体的教育目標、社会的貢献の仕方、建学の精神を具現化するための教育方法・教育実践）のうちの、どのカテゴリーのどの構成要素を見直し、力を入れなければならないのか、何が問題点で、乗り越えるための課題は何かを見つめ直す手がかりとなる。たとえば、この見直し・反省の必要は、時代を越えて生き続けるタイプの建学の精神を掲げる、特にキリスト教主義学校や精神教育を重んじている学校が現代において直面している問題である<sup>5)</sup>。

調査結果（2）より、「建学の精神」として普遍的理念を重視する私学の存在と共に、時代性・地域性（価値観の多様化・変化、社会の違い・変化）を重視する私学の存在が示された。このことから私立高等学校には、創立の原点を問い直し、その原点に立ち戻ることが求められるタイプと、時代性・地域性に即して、常に新しくより良いものを模索することが求められるタイプがあることが分かる。もちろん、すべての私学の建学の精神がその両極のいずれかに属するということはありませんし、同じ学校においても5つのカテゴリーに属する構成要素によって、普遍性、時代性・地域性を考える必要がある。

今日、私立高等学校がその存在意義を打ち出していくためには、まず自らの「あるべき姿」を建学の精神に照らして深く検討した上で、現代におけるスクール・アイデンティティ（S.I.）を確立し、その独自性を発揮していくことが必要である。そして、そのことこそが現代における山積した教育問題の解決につながると考える。

表3 「建学の精神」の分析 (※5段階評価の平均値)

	宗教系		非宗教系		全体	
	キリスト教系	非キリスト教系	キリスト教系	非キリスト教系	キリスト教系	非キリスト教系
	採用率	平均	採用率	平均	採用率	平均
1. 教育理念	合計	(100%, —)	(100%, —)	(94%, —)	(97%, —)	(97%, —)
1-1. 特定の宗教・思想	小計	(100%, —)	(100%, —)	(50%, —)	(71%, —)	(71%, —)
<宗教>	小計	(100%, —)	(100%, —)	(0%, —)	(42%, —)	(42%, —)
1) キリスト教	小計	(100%, 3.88)	(0%, —)	(0%, —)	(31%, 3.88)	(31%, 3.88)
a. カソリック		(39%, 3.89)	(0%, —)	(0%, —)	(12%, 3.89)	(12%, 3.89)
b. プロテスタント		(58%, 3.86)	(0%, —)	(0%, —)	(18%, 3.86)	(18%, 3.86)
c. その他		(3%, 4.00)	(0%, —)	(1%, —)	(1%, 4.00)	(1%, 4.00)
2) 仏教	小計	(0%, —)	(73%, 3.92)	(0%, —)	(9%, 3.92)	(9%, 3.92)
a. 天台系		(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)
b. 真言系		(0%, —)	(4%, 4.00)	(0%, —)	(0%, 4.00)	(0%, 4.00)
c. 浄土系		(0%, —)	(58%, 4.00)	(0%, —)	(7%, 4.00)	(7%, 4.00)
d. 禅系		(0%, —)	(8%, 3.50)	(0%, —)	(1%, 3.50)	(1%, 3.50)
e. 日蓮系		(0%, —)	(4%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)
f. 奈良仏教系		(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)
g. その他		(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(0%, —)
3) 神道		(0%, —)	(12%, 4.33)	(0%, —)	(1%, —)	(1%, —)
4) その他の宗教		(0%, —)	(16%, 2.75)	(0%, —)	(2%, —)	(2%, —)
<思想>	小計	(88%, —)	(65%, —)	(50%, —)	(64%, —)	(64%, —)
1) 儒教		(0%, —)	(4%, 2.00)	(4%, 4.00)	(3%, 3.50)	(3%, 3.50)
2) 日本民族の持つ伝統的精神・日本精神		(2%, 3.00)	(20%, 3.60)	(12%, 3.62)	(9%, 3.58)	(9%, 3.58)
3) 実学主義		(4%, 4.00)	(0%, —)	(18%, 3.72)	(12%, 3.76)	(12%, 3.76)
4) 民主主義と基本的人権 (日本国憲法と教育基本法の精神)		(29%, 3.95)	(20%, 4.00)	(25%, 3.70)	(26%, 3.82)	(26%, 3.82)
5) その他の思想		(84%, 4.33)	(52%, 3.50)	(9%, 3.67)	(37%, 3.93)	(37%, 3.93)

1. 教育理念：基盤としての特定の宗教・思想及び設立目的

1-2. 設立の目的	小計	(97%, —)	(96%, —)	(89%, —)	(93%, —)
1) 建学の基盤とする宗教・思想の普及	1)	(84%, 3.65)	(52%, 4.00)	(9%, 4.22)	(37%, 3.77)
2) 社会の要請	2) 小計	(39%, 4.00)	(36%, 3.67)	(57%, 3.73)	(49%, 3.81)
a. 日本の再建・近代化		(15%, 4.13)	(4%, 3.00)	(13%, 3.87)	(13%, 3.92)
b. 地域の要請に対応 (地域振興・地域産業への人材供給)		(16%, 3.89)	(28%, 3.40)	(39%, 3.90)	(31%, 3.85)
c. 産業界の要請 (特定の業界・業種の興隆に伴う人材需要) に対応		(3%, 4.50)	(0%, —)	(13%, 3.76)	(9%, 3.84)
d. 国際社会への貢献 (国際的感覚を持つ人材の養成)		(37%, 3.73)	(8%, 3.00)	(17%, 3.58)	(22%, 3.64)
e. 社会風潮の是正		(7%, 3.50)	(4%, 3.00)	(7%, 3.40)	(7%, 3.40)
f. その他		(6%, 4.00)	(4%, 2.00)	(7%, 4.00)	(6%, 3.80)
3) 教育機会の保障	3) 小計	(47%, 4.15)	(24%, 4.00)	(22%, 4.00)	(30%, 4.09)
a. 障害者		(9%, 4.17)	(0%, —)	(6%, 3.83)	(6%, 4.00)
b. 女子		(37%, 4.57)	(24%, 4.50)	(23%, 4.62)	(28%, 4.59)
c. 勤労者		(0%, —)	(0%, —)	(5%, 3.40)	(3%, 3.40)
d. 帰国子女		(16%, 3.56)	(4%, —)	(5%, 4.00)	(9%, 3.73)
e. その他		(2%, 5.00)	(0%, —)	(2%, 3.00)	(1%, 4.00)
4) 人間性の教育 (全人教育・個性の育成など)	4)	(75%, 3.83)	(50%, 3.75)	(63%, 3.78)	(65%, 3.80)
5) 特別な才能・技能 (芸術的能力など) の育成	5)	(12%, 3.67)	(4%, 3.00)	(11%, 3.75)	(10%, 3.68)
6) 女子教育の内容の充実	6)	(53%, 3.94)	(42%, 4.00)	(30%, 4.26)	(39%, 4.08)
7) その他	7)	(0%, —)	(8%, 3.50)	(1%, 1.00)	(1%, 2.67)

## 2. 教育対象

2-1. 性別	2-1	(9%)	(15%)	(25%)	(19%)
1) 男女共学		(0%)	(0%)	(3%)	(2%)
2) 男女別学		(28%)	(31%)	(31%)	(30%)
3) 男子のみ		(63%)	(54%)	(36%)	(46%)
4) 女子のみ		(0%)	(0%)	(2%)	(1%)
5) その他 (設置科別による男女別学等)					

## 2-2

## 2-2. 特定の教育対象

1) 特定の対象なし	(79%)	(65%)	(70%)	(72%)
2) 勤労青年	(3%)	(0%)	(5%)	(4%)
3) 障害児	(0%)	(0%)	(0%)	(0%)
4) 併設校からの内部進学者	(4%)	(0%)	(3%)	(3%)
5) 帰国子女	(6%)	(0%)	(2%)	(3%)
6) 特定の業界・業種の後継者 (商家の子弟等)	(2%)	(0%)	(1%)	(1%)
7) 寺社・教会員の子弟	(3%)	(15%)	(0%)	(3%)
8) 英才児童・生徒	(0%)	(0%)	(5%)	(3%)
9) 不適応児童・生徒	(0%)	(0%)	(2%)	(1%)
10) その他	(2%)	(4%)	(2%)	(2%)

## 3. 具体的な教育目標

## 3. 教育目標 合計 (99%, —) (92%, —) (97%, —) (97%, —)

## 3-1. 習得すべき精神・身体的資質

## &lt;一般的資質&gt;

1) 調和のとれた人格	(99%, —)	(92%, —)	(97%, —)	(97%, —)
2) 心身の健康	(99%, —)	(92%, —)	(93%, —)	(95%, —)
3) 基本的生活習慣の習得	(82%, 3.70)	(72%, 3.42)	(76%, 3.77)	(78%, 3.71)
4) 個性豊かな人物	(40%, 3.76)	(52%, 3.38)	(46%, 3.89)	(45%, 3.80)
5) 真・善・美の追求	(49%, 3.46)	(32%, 3.83)	(58%, 3.87)	(52%, 3.73)
6) 国際性	(53%, 3.75)	(28%, 3.20)	(47%, 3.55)	(47%, 3.60)
7) その他	(34%, 3.53)	(20%, 3.75)	(13%, 3.58)	(20%, 3.58)
	(62%, 3.68)	(40%, 3.43)	(24%, 3.64)	(37%, 3.63)
	(6%, 3.75)	(8%, —)	(1%, 3.00)	(3%, 3.60)

## &lt;知育的側面&gt;

1) 教科面における学力	(91%, —)	(92%, —)	(84%, —)	(87%, —)
a. 基礎学力の充実	(81%, 3.49)	(84%, 3.77)	(72%, 3.75)	(76%, 3.65)
b. 受験に備えた高度な学力	(65%, 3.57)	(68%, 3.80)	(73%, 3.83)	(70%, 3.75)
2) 一般教養	(33%, 3.70)	(36%, 3.50)	(42%, 3.74)	(38%, 3.71)
3) 合理的・論理的思考力	(34%, 3.35)	(32%, 3.60)	(34%, 3.43)	(34%, 3.42)
	(19%, 3.45)	(8%, 3.00)	(15%, 3.60)	(16%, 3.52)

## 4) 優れた洞察力和創造性

## 5) 積極的な学習態度

## 6) その他

4)	(31%, 3.60)	(20%, 3.00)	(23%, 3.38)	(25%, 3.43)
5)	(34%, 3.37)	(20%, 3.33)	(35%, 3.58)	(33%, 3.49)
6)	(0%, —)	(0%, —)	(2%, 4.00)	(1%, 4.00)

## &lt;徳育的側面&gt;

## 1) 宗教的情操 (畏敬の念) をもつ人物

## 2) 豊かな情操をもつ人物 (人間性, 感受性, 心の豊かさ)

## 3) 高い道徳性・倫理性をもつ人物 (人間性の尊重, 生命の尊重, 正義感)

## 4) 確固とした価値観をもつ人物 (人生観, 社会観, 理想, 生きがい)

## 5) 責任感があり, 自らの意志によって判断のできる, 自立した人物

## 6) 礼節を守り品位をもつ人物

## 7) 誠実で清らかな心をもつ人物 (正直, 信頼される人物, 純真)

## 8) 物事に対してまじめで着実にとりくめる人物 (勤勉・勤労, 堅実, 質素)

## 9) 勇気のある強い心をもつ人物

## 10) 頭で考えるだけでなく物事を実行してゆける人物 (実行力・知行合一)

## 11) 明るく穏やかで広い心をもつ人物 (明朗, 温和, 寛容)

## 12) 他人に対して愛情をもって接することができる人物 (隣人愛, 奉仕, 思いやり)

## 13) 他者と協力し秩序を守って社会生活を営める人物 (協調性, 公共性)

## 14) 郷土・国を愛し日本の伝統文化を尊重する人物

## 15) その他

小計	(97%, —)	(92%, —)	(92%, —)	(93%, —)
1)	(81%, 3.48)	(68%, 3.91)	(2%, 3.50)	(34%, 3.56)
2)	(63%, 3.70)	(56%, 3.67)	(58%, 3.69)	(59%, 3.69)
3)	(57%, 3.66)	(44%, 3.83)	(37%, 3.61)	(44%, 3.65)
4)	(46%, 3.35)	(12%, 4.00)	(21%, 3.47)	(28%, 3.41)
5)	(54%, 3.32)	(32%, 3.50)	(52%, 3.46)	(51%, 3.41)
6)	(41%, 3.48)	(52%, 3.56)	(50%, 3.72)	(48%, 3.63)
7)	(52%, 3.54)	(40%, 3.67)	(46%, 3.85)	(47%, 3.73)
8)	(38%, 3.53)	(32%, 3.50)	(56%, 3.73)	(48%, 3.66)
9)	(29%, 3.14)	(8%, 4.00)	(15%, 3.57)	(19%, 3.38)
10)	(37%, 3.21)	(16%, 3.67)	(32%, 3.64)	(31%, 3.48)
11)	(37%, 3.74)	(40%, 3.67)	(35%, 3.68)	(36%, 3.69)
12)	(82%, 3.89)	(52%, 3.56)	(48%, 3.69)	(59%, 3.77)
13)	(37%, 3.71)	(28%, 3.75)	(28%, 3.57)	(31%, 3.63)
14)	(25%, 3.00)	(24%, 3.75)	(17%, 3.33)	(21%, 3.27)
15)	(2%, —)	(0%, —)	(0%, —)	(1%, —)

## &lt;体育的側面&gt;

## 1) 体力・体位の向上

## 2) スポーツマン・シップ (フェアプレイの精神)

## 3) その他

小計	(65%, —)	(65%, —)	(66%, —)	(66%, —)
1)	(53%, 3.26)	(60%, 3.44)	(59%, 3.53)	(57%, 3.44)
2)	(28%, 3.47)	(24%, 4.00)	(25%, 3.59)	(26%, 3.57)
3)	(3%, 3.00)	(0%, —)	(1%, 3.00)	(1%, 3.00)

## 3-2. 特別に習得をめざす技能・技術

3-2	小計	(75%, —)	(50%, —)	(64%, —)	(66%, —)
	(66%, 3.97)	(28%, 3.80)	(26%, 3.67)	(39%, 3.84)	
	(18%, 3.38)	(16%, 4.00)	(19%, 3.82)	(18%, 3.71)	
	(10%, 3.67)	(12%, 3.67)	(21%, 3.50)	(16%, 3.54)	
	(3%, 3.50)	(4%, 4.00)	(9%, 4.14)	(7%, 4.00)	
	(0%, —)	(4%, 4.00)	(0%, —)	(1%, 4.00)	
	(24%, 3.85)	(16%, 3.67)	(7%, 3.57)	(13%, 3.74)	
	(7%, 3.67)	(8%, 3.00)	(14%, 3.79)	(11%, 3.72)	
	(4%, 3.50)	(0%, —)	(5%, 4.25)	(4%, 4.00)	
	(3%, 5.00)	(4%, —)	(4%, 4.25)	(4%, 4.50)	

## 4. 社会的貢献のあり方

4. 社会貢献 合計 (90%, —) (92%, —) (86%, —) (88%, —)

- 1) 良き家庭人 (主婦, 良妻賢母, 近代的家庭人)
- 2) 市民・民主社会への貢献 (善良なる市民, 近代的市民)
- 3) 優れた産業人
- 4) 日本国・国家への貢献
- 5) 日本の文化・歴史への貢献
- 6) 国際社会・世界平和と人類の福祉への貢献
- 7) 国家・社会の指導者
- 8) その他

## 5. 建学の精神を具現化するための教育方法・教育実践

5. 方法・実践 合計 (96%, —) (85%, —) (89%, —) (91%, —)

## &lt;学校の形態&gt;

- 1) 全寮制教育
- 2) 一貫教育
- 3) 通信教育
- 4) その他

## &lt;学校形態&gt; 小計

(75%, —)	(58%, —)	(55%, —)	(62%, —)
(7%, 3.67)	(12%, 4.50)	(6%, 3.50)	(7%, 3.73)
(63%, 3.70)	(36%, 3.57)	(35%, 3.97)	(43%, 3.81)
(2%, —)	(0%, —)	(2%, 4.00)	(1%, 4.00)
(10%, 3.40)	(12%, —)	(19%, 3.73)	(16%, 3.63)



<b>&lt;学習の形態&gt;</b>		
1) 個別化・個性化教育 (個人差に応じた教育, 学力到達度別)		
2) 少人数教育		
3) 集団 (生活) 訓練		
4) その他		
<b>&lt;体験・生活の重視&gt;</b>		
1) 体験学習		
2) 労作教育		
3) 生活を通じた教育		
4) その他		
<b>&lt;特に重視する教育課程及び指導&gt;</b>		
1) 教科指導		
2) 進路指導		
3) 生活指導 (異教育を含む)		
4) 道徳教育		
5) 特別活動		
6) その他		
<b>&lt;その他&gt;</b>		
1) 特定の宗教・思想に基づいた教育方法		
2) 教師の資質の開発・向上		
3) その他		

<b>&lt;学習形態&gt; 小計</b>		(78%, —)	(65%, —)	(70%, —)	(72%, —)
		(54%, 3.55)	(36%, 3.57)	(40%, 3.72)	(44%, 3.64)
		(44%, 3.74)	(20%, 4.00)	(23%, 3.94)	(29%, 3.85)
		(22%, 3.18)	(32%, 4.00)	(29%, 3.59)	(27%, 3.54)
		(0%, —)	(4%, —)	(5%, 3.00)	(3%, 3.00)
<b>&lt;体験生活&gt; 小計</b>		(52%, —)	(50%, —)	(56%, —)	(54%, —)
		(35%, 3.29)	(24%, 4.50)	(28%, 3.62)	(30%, 3.56)
		(12%, 3.40)	(12%, 4.50)	(16%, 3.69)	(14%, 3.70)
		(27%, 2.93)	(28%, 4.20)	(21%, 3.50)	(24%, 3.38)
		(0%, —)	(4%, 4.00)	(8%, 3.14)	(5%, 3.25)
<b>&lt;教育課程&gt; 小計</b>		(81%, —)	(81%, —)	(81%, —)	(81%, —)
		(60%, 3.91)	(44%, 4.00)	(46%, 3.79)	(50%, 3.85)
		(46%, 3.96)	(48%, 3.90)	(44%, 3.85)	(45%, 3.89)
		(54%, 3.76)	(56%, 3.70)	(64%, 3.84)	(60%, 3.80)
		(27%, 3.64)	(24%, 4.20)	(21%, 3.70)	(23%, 3.74)
		(24%, 3.82)	(12%, 4.50)	(18%, 4.06)	(19%, 4.00)
		(3%, 3.50)	(8%, 5.00)	(0%, —)	(2%, 4.00)
<b>&lt;その他&gt; 小計</b>		(67%, —)	(50%, —)	(34%, —)	(46%, —)
		(59%, 3.77)	(28%, 4.50)	(2%, 3.33)	(23%, 3.82)
		(24%, 3.40)	(24%, 3.75)	(33%, 3.36)	(29%, 3.40)
		(0%, —)	(0%, —)	(1%, —)	(1%, —)

## 註

- 1) 北山正行 1990 私立学校制度と私立学校の振興 「新教育法規読本」  
教育開発研究所 89.
- 2) 中島保俊 1993 私学の独自性と教育課程 「私学の性格についての研究」東京私学教育研究所 133-135.
- 3) 町田健一、岡林秀樹、原田一成、目黒賢哉、高瀬香織 1995 建学の精神堅持のための課題——私立高等学校の使命達成のために 「日本教育学会 第54回大会発表要旨集録」 152-153.
- 4) 中島保俊 前掲書 132.
- 5) 町田健一 1995 キリスト教学校教育における教師教育の課題——教師教育改革の実践的研究—— 「日本キリスト教教育学会論集」 第3巻 45-59、89-92.

**A Study on The Spirit Behind the Founding  
of a Private High School  
(English Résumé)**

**Kenichi Machida, Hideki Okabayashi  
Kazunari Harada, Kenya Meguro  
Kaori Takase**

This study is a part of a survey of private high schools in Japan, dealing with the spirit behind the founding of a private school, the integrated secondary education system, and the dormitory education. This study is linked with the survey of private elementary and junior-high schools, that began in AY1993.

The study, first, reconsiders the justification for the existence of Christian schools in Japan. We feel this study is necessary as Christian schools seem to be dying out as a result of thing like a decrease in the number of Christian teachers and a decrease in the number of students interested in attending this type of school. The second motivation for the survey is more general one: to determine the School Identities of private schools, facing a crisis that the number of students is decreasing in Japan, by reconsidering the spirit behind the founding of a private school.

The make-up of the spirit behind the founding of a private school are varied; each school lays stress on different points; and the efforts made toward realization of this spirit are also varied in accordance to the type of school. The first step of this study is to extract the make-up of the spirit behind the founding of a private school and categorize the various parts.

This categorization helps answer the questions, "What kind of the 'spirit' can survive the changes of time?" "What kind of 'spirit' has been compelled to change with the times or as a result of other factors?" Due to the limited space of this paper, the problems of the persistence of the spirit behind the founding of a private school and the reasons for these problems will be mentioned on another occasion.

It is quite difficult to categorize the make-up of the "spirit" of each school, as there is no standardized format. After a pilot study of 379 high schools in 10 prefectures, some keywords have been discovered. In general, the make-up of the spirit behind the founding of a private school can be categorized by the following 5 subject areas:

1. Educational philosophy ( specific religion, thought and objectives for establishment )
2. The subject of education
3. Concrete educational objectives
4. The way the school will contribute to society
5. The approach or practice of education utilized to realize the spirit of behind the founding of a private school

These categories typically fit into a school charter in the following manner:

"Based on \_\_\_\_ 1 \_\_\_\_ ( religion/thought ), this school considers \_\_\_\_ 2 \_\_\_\_ to be of primary importance. It aims at educating the person who can be equipped with such characteristics and skills as \_\_\_\_ 3 \_\_\_\_, and expects him/her to contribute the society or community in \_\_\_\_ 4 \_\_\_\_\_. This school attempts to achieve this purpose through \_\_\_\_ 5 \_\_\_\_\_."

After readjustment of the keywords, the subcategories are as seen in Table 3 ( in Japanese ). Questionnaires based on the table were sent to all the private high schools in Japan (1238 high schools), and the answers have been analyzed. A preceding study on the categorization of private schools points out that the schools with religious backgrounds earnestly exert themselves toward achievement of their spirit behind the founding of their individual school. This study analyzes the spirit behind the founding of a private school in terms of religious or non-religious backgrounds, and considers the changes wrought by time.